

鶴見大学文学部ドキュメンテーション学会

NEWS LETTER

Documentation No.13

ドキュメンテーション



■災害時に貢献しよう ―ドキュメンテーションの知識と技術―

ドキュメンテーション学科では、5期生が卒業する季節になりました。昨年は3月11日に東日本大震災が起き、未曾有の地震津波災害となりました。その犠牲になられた方々に改めて深い哀悼の意を表します。今もなお厳しい状況下におられる被災者の方々には、心からお見舞いを申し上げます。被災者の支援と被災地の復興のために鶴見大学でも、夏休み、冬休みに続いて、春休みにも学生や教職員がボランティア支援を予定しています。充実した春休みを過ごしたいと考えている人は、是非参加してください。

この大地震により、被災地の図書館、文書館、博物館に所蔵されていた貴重なドキュメント（資料や史料等）が失われたり、汚損されたりしました。非常に残念ではありません。このような時、ドキュメンテーション学科で学んだ多くの知識と技術が役立ちます。ドキュメンテーションは、情報の生産から利用に至るまでのプロセスと、その諸段階で活用される技術すべてを研究対象としています。人間が生産するさまざまな情報を再利用するための知の統合を推進する技術や学問的研究がドキュメンテーションの活動範囲です。

被災した貴重なドキュメントを修理、整理、分類して

元の状態に戻すこと、日本各地から被災地の図書館に寄贈された多くの本を利用者が使えるように整備すること、将来に向けて貴重なドキュメントを電子化して、貴重な書物を安全な場所に保管し、普段は電子化したドキュメントを誰でもいつでもインターネットを通じて見ることができるようにすることなど、すべてがドキュメンテーションです。このように、本学科で学ぶあらゆる知識や技術が、このような災害時に活用され、日本の文化的活動を支えることができるのです。卒業生は実社会の現場でその知識や技術を活用し、在学生はこれからの授業を上記述べた様な視点からも学習してみてください。

最後に、8年前に本学科の設立にご尽力され、初代主任教授を務められた岡田靖先生が、この春ご定年を迎えられました。日本に唯一の学科であるユニークな学科誕生にご貢献されましたこと、および鶴見大学で30年間の長きに渡りご指導を賜りましたことへの御礼を申し上げます。益々のご活躍をお祈りいたします。

ドキュメンテーション学科主任

原田 智子 Tomoko Harada

平成 23 年度 卒業論文題目——研究室紹介

岡田靖研究室

- 長内 孝典 一般紙におけるスポーツ欄の時代による変化
郡司 勝成 先頭打者の出塁は得点につながるのか
：鶴見大学野球部のスコアブックをもとに
小久江右治 パリーグとセリーグにおける野球のちがいがい
：エクセルによるデータ分析
榊原 由人 投手のタイプによるフォームの分析：映像資料を基に
曾根田哲史 野球に関する書誌作成
高井 尚之 学生の読書傾向について：鶴見大学の場合
中澤 晃一 インターネットとブライダル産業
長島 裕 大学図書館の評価基準について
東 風太 草野球の意識調査分析
菱山 寛樹 戦後 GHQ による検閲とその影響
吉田 明弘 釣り場情報サイトの開発


長塚隆研究室

- 宇内 千理 表計算のための初心者向け Web 教材・問題集の作成
海東 優樹 インターネット上における個人情報漏洩の問題点と現状
川野 圭太 野球守備に関する初心者向け Web 教材の作成
栗田 恭平 バッティングに関する初心者向け Web 教材の作成
坂井 力樹 スマートフォンと携帯電話の現状と利用動向の分析
笹谷 尚弘 PC オンラインゲームの利用動向
島袋真巳バネッサ ドリーム小説と著作権侵害
宮本 大史 コンピュータウイルス被害防止に関する Web 教材の作成
山川 茜 デジタルノートテイキングの実態
横山 弘朗 写真データベースへの感性語の付与

原田智子研究室

- 石村 早紀 鶴見大学図書館における学生選書の現状と分析
稲垣 康寛 学術情報基盤実態調査《大学図書館編》に基づく大学図書館の実態調査
岩倉 彩香 大学生と本との関わり：大学生時代における幼少期からの影響
岡田 玲 都道府県立図書館におけるメールマガジンの内容分析
工藤 結香 日本の映画から見る図書館員像
佐藤 久美 横浜市立図書館と川崎市立図書館におけるお話し会の比較
関口 有美 東日本大震災が公共図書館に及ぼした影響と支援活動
千島 里織 書籍の電子化における現状分析
長田 春菜 ベストセラーの特徴と寿命に関する調査
野中 好美 神奈川県ライトセンターと川崎市盲人図書館における
DAISY 録音図書サービスの現状
山田 麻耶 大学図書館で利用できるデータベースの調査



 大矢一志研究室

- 川松 亜美 弓道向け実技評価システムの実装
- 古川 森 XML アーキテクチャの研究 ー 表の表示処理 ー

 伊倉史人研究室

- 内海 圭人 呪術と箒の関係性
- 小池 梓 日本昔話の比較・調査 ー 時代による変化とその意義 ー
- 小林 郁子 日本の伝統文様を学ぶためのカルタの製作
- 小松 楓 デジタル色見本の作製
- 佐伯 綾子 くずし字の読解における問題点と解決法
- 志村 麻由 鶴見大学図書館所蔵の農具便利論の調査研究
- 高野 晃平 論語ブームに関する調査および研究
- 高林 鎌平 速記の歴史と必要性
- 中島 史織 誤字の分類と発生原因 ー 校正との関係 ー

 久保木秀夫研究室

- 小林 則仁 鶴見大学図書館蔵『元可法師集』の書誌学的研究
- 鈴木 彩花 『イソップ物語』の日本語版4本の比較
ー ペリー版・シャンプリ版・伊曾保物語・イソポのハプラス ー
- 鈴木 雅人 書物の歴史と西洋古典籍の判型についての調査
- 高橋 達大 鳥獣人物戯画と漫画の歴史
- 高間木 薫 『三国志』正史と演義についての研究

 元木章博研究室

- 伊藤 有未 全国のミュージアムにおける Web アクセシビリティの調査と公共図書館との比較
- 梅原 哲志 日本社会における戯画描写の変化とその概念調査
- 長部 南 公共図書館における未就学児の保護者を対象とした利用促進情報に関する調査と提案
- 笠原 友貴 宗教の変遷とそれに伴う神々の変質に関する調査とデータベースの構築
- 佐野 真弓 元木研究室における写真管理システムの開発と運用
- 杉田絵里奈 Flash による携帯電話向け学習支援システムの開発と評価
- 比嘉 俊也 鶴見大学図書館における紙芝居検索システムの開発と評価
- 溝口 裕俊 学習者・教授者の評価に基づいた作問学習支援システムの開発
- 宮地 健太 元木研究室内 LAN におけるネットワーク利用状況監視システムの構築
- 向井 政人 GBS 理論に基づくネットワーク接続障害に関する自己学習教材の開発と評価
- 村澤 里美 Wii リモコンを用いた認知症予防アプリケーションの開発
- 村松 未来 鶴見大学内におけるキャンパス情報共有データベースの作成と評価
- 河合 宏海 学生ノートデータ自動処理システムの開発と評価
ー デジタルテキストにおけるコメント付与数分析 ー
- 道家 拓真 日本のパソコン向け音楽配信サービスに関する調査 ー 楽曲販売業の課題 ー



🏆 岡田靖研究室

岡田ゼミでは自分の努力が問われるゼミでした。先生は飽く迄、卒業論文を書き上げるまで道筋を示すことであり、遣りたいこと、卒論を書き上げるまでに必要なことを考えるのは私たち生徒自身です。ゼミでの活動は岡田先生との個人面談が主となるため、的確なアドバイスを貰うことができます。自分で考え、自分で決める。それは考えている以上に難しいことでしたが、そんな私たちの意思を尊重しながら導いてくれる岡田先生のおかげで、ゼミでは全員が卒論を書き上げることができました。(菱山寛樹)



📖 原田智子研究室

原田研究室では、図書館に関する研究を主に行います。3年生の2月から卒論のテーマを本格的に考え始め、前期に先行文献の調査やデータの収集を開始します。後期には卒業論文提出と発表会を行います。夏休みのゼミ合宿は中間発表が目的ですが、名所観光も楽しみました。卒業論文は、先生と密に連絡をとりながら進めることができます。卒業論文の書き方も細かく指導していただけます。「つい怠けちゃう……」という方には最適なゼミです。(石村早紀)

✉ 大矢一志研究室

私達の研究室では、毎週進めた事を各自が報告して、先生やゼミ生から意見をもらいます。人数が少ないため、一人分の時間が長く、意見をたくさんもらう事が出来ました。夏休み中に作業を終わらせ、10月から本文を書き始めますが、私は10月から書き始めることが出来ませんでした。急いで文章を書くと説明が少なく分かりにくくなってしまいます。論文を書くことにもっと時間を費やせるよう作業を進めるべきだったと思います。(川松亜美)



📖 久保木秀夫研究室

生徒5人というこぢんまりとしたゼミでしたが、毎回の発表、質疑応答ととても濃く充実した時間を過ごせました。久保木先生は書誌学がご専門ですが、ゼミでは専攻コースの枠を越えた様々なテーマで各自が研究、考察をしていきました。書誌学一辺倒で私家集を研究テーマにした私にとって、三国志、漫画、イソップ物語、大型本をあげた4人の仲間の存在はユニークで、とても良い刺激になりました。鈴木さん、鈴木君、高橋君、高間木君、論文執筆お疲れさま。久保木先生、ご指導ありがとうございました。(小林則仁)



📄 長塚隆研究室

私は卒業論文で学生にアンケートを取りました。設問作りや回答にかかる時間など1人で作成すると見落としがちな点が多い為、ゼミの仲間や教授にアドバイスを貰いながら完成させました。それはゼミの仲間も同じで、皆でアドバイスをし合う事によって全員良い卒業論文ができました。卒論は一人で作成するものだと思っていましたが、今回の経験によってそうではないことが分かったと同時に、他人の意見の大切さも学ぶことができました。(島袋真巳バネッサ)



📷 伊倉史人研究室

私は大蔵永常の「農具便利論」の研究をしました。なかなかテーマが決まらない時、先生やゼミの仲間からアドバイスをもらい、書くべき題材に辿り着くことができました。卒論演習では各自が調査の途中経過を発表し、お互いの論文をより良くするために疑問点を指摘し合いました。ゼミの雰囲気は和気あいあいとしていて、研究に行き詰まっても自分を取り戻せる場でした。先生は厳しい時もありますが、自分で考えることの大切さ、様々な視点から物事を見ることの大切さを教えていただきました。(志村麻由)



📶 元木章博研究室

元木ゼミは、教育、セキュリティ、Web アクセシビリティなど幅広いテーマで研究を行なっている研究室です。今年度も、紙芝居検索システムや図書館サービスなど様々なテーマで研究を行ないました。特に堅苦しさはなく、お茶を飲みながら研究室で作業する学生もあり、お互いの意見や知識を交換できる機会がたくさんありました。また、4年生だけではなく、授業の質問や就職活動の相談にやって来る1～3年生も多く、にぎやかな研究室です。(杉田絵理奈)

■ 卒業生による 研究室紹介



マークアップ言語のグリーンナ

Gleaners of Markup Languages

大矢 一志
Kazushi Ohya

No.7 HTML5 その2 禁断の技術

家訓とまではいいませんが、我が家は安全・堅実が第一です。道路の斜め横断など厳禁で、垂直渡り（最短距離で渡ること）しか認められません。ローンなども御法度で、全て現金払いです。冷蔵庫を買うにも、まず貯金から始めます。こんな家庭で育ってしまうと、その反動からか、大人になるにつれ、すっかり新しいもの好きになってしまいました。新製品が出るとすぐに欲しくなり、即、貯金を始めてしまいます。

前回紹介した HTML5 という新しいマークアップ言語は、電子書籍を支える要素技術として、現在、開発が進められています。ところが、先陣争い、という訳ではないのですが、新しいブラウザでは、HTML5 の規格が定まっていないにもかかわらず、早速、その機能の一部が実際に使えるようになっていきます。これを鼻目目（ひいきめ）に見れば、実証実験、つまり、その機能がどれだけ有効に使えるのかを、実際に使ってみて確かめることをしているといえます。但し、これを僻目（ひがめ）で見れば、欲望を抑えきれず、我慢の限界を超え、耐えきれずに実装し始めた、ともいえます。今回は、HTML5 の誕生には、ある欲望との葛藤があったことを紹介します。

ブラウザが誕生して間もない頃、web の世界は、ハイパーリンク、つまり、リンクボタンが画面に表示され、そこから新しい情報を辿ることができる世界でした。1990 年代中頃までのことです。これは、今でも同じですが、正確に言うと、表現は逆となり、今でも当時と同じことをしているのです。1990 年初頭に web システムが開発され、それを表現するブラウザが開発され、ブラウザが改良されるのと並行して、HTML も開発されてきました。1990 年代中頃までは、HTML とそれを表現するブラウザは、共に発展しながら、規格を探っていったのが実際の様子です。この協調開発の中で、画像の表現や、ページのレイアウトなどの機能が整備されていきました。つまり、リンクボタンの存在だけでなく、見栄えを良くする表現力が高められてきたのです。高校の授業で習う HTML は、この頃に決められた HTML2(1995 年) が基になっています。ところが、今ある HTML は、それから 10 年も経っている割には、見栄えを高める表現力が、さほどあるようには思えません。事実、何か面白い表現をする、例えば、音を鳴らしたり、アニメーションを使ったりするには、HTML だけではダメで、FLASH などの力を借りる必要があります。実は、この空白の 10 年の間、HTML の世界では、そのような表現力を求めていなかったわけではありません。むしろ、様々な実験や検討を重ねてきました。正しく評価すれば、わたしの感覚では、この 10 年は堅実な歩みであったといえます。

ブラウザの表現力を高める開発の歴史の中で、Dynamic HTML として提案された技術が生まれました。これは、ブラウザ上で、ブラウザとは別のプログラムを動かす、web ページの表現力を高めようとした技術です。当時、ブラウザ戦争と呼ばれた、市場競争があり、マイクロソフト社が、OS の機能と一体化したブラウザを開発する中で生まれてきたものが、この Dynamic HTML です。この技術を使うと、ブラウザは、殆ど OS のような働きをするようになります。例えば、ファイルを読み書きしたり、プログラムを立ち上げたり、複数のプログラム同士を連携させることもできるようになります。こうなると、もう、OS は不要で、ブラウザだけで、何でも出来るようになります。この技術が開発されたとき、多くの方は、X Window(という Unix 上で実現していた遠隔のウィンドウズ) の新しい進化形を見たような気分になりました。そして、ブラウザがソフトウェアの中心となる時代を予感したのです。

ところが、この熱狂は、半年も続きませんでした。OS に匹敵する機能を持ったブラウザは、まだ、開発の歴史は浅く、手に入れた道具の力を正しく管理することができませんでした。その穴をつく悪意のあるソフトウェアが、web 上に多く出現したのです。OS のように、ファイルを読み書きできるブラウザ上で展開したソフトウェアは、勝手にハードディスクの中身を読み込み、時に消去してしまうような web ページが現れたのです。この様な、深

刻なセキュリティの問題を引き起こす Dynamic HTML の技術は、あっという間に、実際には使われなくなりました。HTML とブラウザの開発の歴史には、この様な不幸があったのです。この時の失敗は、その後の web 開発でトラウマとなりました。それ程、深刻で、ショッキングな事態だったのです。一瞬見た夢の世界が、悪魔の世界だったというショックです。

それからしばらくして、またもやマイクロソフト社から、新しい技術として XMLHttpRequest というものが開発・提案されました。1990 年代の終わりのことです。これは、今では Ajax(「エイジャックス」と読みます)と呼ばれている技術の、一番重要な要素技術です。当時、インターネットの世界では、マイクロソフト社はオオカミ少年として知られていましたので(この理由などの詳細は、また別の機会にしましょう)、この技術は無視されていましたが、その一方で、これを XML データの処理に使う方法が探られていきました。その成果を世の中に見せつけたのは、Google の Gmail と Google マップです。特に、Google マップのスピード感に、多くの人が驚き、新しい技術の可能性を見ました。ここから人々は、再び、ブラウザがソフトウェアの中心となる時代を予感したのです。そして、もう、人々は、ブラウザにソフトウェアの機能を載せないという禁欲に、我慢できなくなったといえます。その結果、旧来の HTML2 を継承するはずであった HTML4 ではなく、新たな HTML5 の開発が進められることになりました。

HTML5 には、ここで紹介したような禁欲を破り、ブラウザに高度な処理能力を持たせています。音声や動画の処理に加え、ファイルの読み書きも認められています。HTML5 では、はじめから JavaScript との連携が想定されています。また、他のソフトウェアとの連携も許されています。HTML5 は、堰を切ったかのように、まさに猪突猛進の勢いで、開発と実装が進められています。もう、やりたいことをやらせてくれ、という技術者達の生の声が聞こえてきそうな雰囲気です。

この様な、理性を吹き飛ばしたかのような勢いに対して、2011 年、ヨーロッパ連合 (EU) の機関から、HTML5 に対して、セキュリティに関する勧告が出されました。HTML5 にある具体的なセキュリティホールをリスト化し、これに対応するよう求めたのです。欧州の冷静な判断と行動は、もっと賞賛されるべきです。HTML5 の開発の勢いは、もう誰も止めることはできないでしょう。けれども、HTML5 には、かつて失敗したセキュリティ管理の課題に対して、真摯な姿勢で研究を進めない、また負の歴史をくり返す可能性があります。HTML5 は、web 世界のこれからの 10 年の運命がかかる、技術者・研究者の力が試されている技術なのです。

BOOK REVIEW

荻野綱男・田野村忠温【編】

『講座 IT と日本語研究 (全 8 巻)』

明治書院 各巻 2400 円(本体)

待望のシリーズ!

高校までの知識で読むことが出来る、日本語の資料(コーパス)を計算機で分析する方法を解説したシリーズが、明治書院から刊行されました。人文情報学の基礎知識が丁寧に説明されています。おそらく、出版社は、この本は大学の文学部で読まれると想定していますが、このシリーズの内容は、高校で学んで欲しい知識ばかりです。ぜひ、図書館で読んでみて下さい。(大矢 一志)

* 鶴見大学図書館の請求記号は 810.7/K (開架・一般)



先を見ることが大切

私は、3年次のコース選択で「情報学コース」へ進もうと思っています。

ドキュメンテーション学科では1年次に「パソコンの基礎を固める」、2年次に「少し専門的な講義・演習へ入る」そして、3年次に「図書館学、書誌学、情報学の中からコース選択」という流れになっています。そして、この3年次のコース選択が4年次の「ゼミや卒業論文」に関係してくるので、その点を視野に入れながらの選択が重要になってきます。改めて、先を見すえた授業選択が2年次から必要だったのだと感じています。

この学科へ入って、私が自分で定めた目標が「パソコンの知識・技術を多く身につけて、図書館司書の資格を取得する」ということでした。目標が決まっていたため、授業選択の基準もパソコンに関する授業と司書資格を取得するのに必要な科目を優先にと、あまり悩まずに決められました。コース選択も自然と「情報学コースに入りながら司書の勉強をする」という勉強の形に決められました。

卒論や今後学びたい事に「電子書籍の流行」ということがあります。今年、パソコン関係と司書関係の授業を受けて思ったことです。その事を念頭に置いて関係する授業は多く受けに行きたいです。

「先を考えて」ということがこの大学生活で目標達成のため私に大切なことです。最近パソコンに関する資格にも挑戦したいと思っているので、長い春休みの時間を利用して頑張ろうと思っています。

丸山 理恵

Rie
Maruyama

学生の声

書誌学に触れて

私は3年生のコース選択では書誌学コースに進みたいと思っています。

書誌学コースのあるドキュメンテーション学科というのはさまざまな情報を扱う学科です。おおまかに図書館に集まる本や雑誌といった情報を扱う図書館学コース、コンピュータを駆使する、高校までで言う「情報」の授業にあたる情報学コース、そして書誌学コースの3つに分けることが出来ます。この内の書誌学コースというのは古典などを中心とした、古い時代に作られて現在に伝わる巻物などの古い書物の情報を扱うコースです。

書誌学は自分も入学するまではまったく知りませんでしたが、興味が湧いて受講してみたところ、授業が面白かったので書誌学コースへ進みたいと現在では考えるようになりました。

書誌学コースの授業はと言いますと、ある日の授業では巻物を開いたり閉じたりするだけで授業が終わってしまったなんて事もありますが、基本的には古典に関する授業やくずし字と呼ばれる簡略化された字を読む練習する授業があります。また、甲骨文字や草書などのさまざまな字に関する授業、そして、古い書物に関して調査をして記録を取るといった授業があります。古典が好き人や、古い書物の実物に触れてみたい人にはピッタリのコースではないか、と私は思っています。

私は大学へ来てから書誌学を知り、学び始めたばかりなので、卒業論文はどんなテーマで書くのは考えている所ではありますが、書誌学をはじめとした授業を受けながら、考えをまとめていきたいと思っています。

横山 章人

Akihito
Yokoyama

レファレンスサービスを学ぶ

私は司書の資格を取ること为目标としているため、入学当初から図書館学コースに進もうと決めていました。しかし、情報学コースの授業を履修している友達の話を知ると、プログラミングやGIFアニメを作る授業にも興味が出てきました。専門とするコースを一つ選ばなくてはなりませんが、別のコースの授業も履修できることがドキュメンテーション学科の利点だと私は思います。ですので私は図書館学コースへ進み、情報学コースの授業も幅広く学んでいきたいです。

図書館学コースの授業で特に印象に残っているのは「情報サービス演習」という授業です。前期の演習Ⅰでは、利用者からの「〇〇とは何か知りたい」といった質問に対し、図書館員がインターネットや図書館にある資料から情報を集め、まとめ、利用者へその情報を提供するという流れを実際に体験しました。後期の演習Ⅱでは、「〇〇という論文・図書を検索したい」といった質問に対し、様々なデータベースを利用して、目的の論文や図書を検索する練習を行いました。どちらの授業も、十分な解答を導き出すのはなかなか難しかったですが、図書館員の仕事について話に聞くだけよりもよく分かりました。

この授業を通して、私は利用者からの質問について調べ、検索し、提供する「レファレンスライブラリアン」の仕事に興味が高まったため、来年はもっと深くレファレンスサービスについて学びたいです。

竹中 綾

Aya
Takenaka



ドキュメンテーション学科新入生としての1年は、とにかくパソコンに触った1年でした。授業でコンピュータの基礎知識や用語の意味を学び、ワードやエクセルの扱い方も丁寧に教えて頂きました。私は表計算が苦手なので、補習をして頂けるのは有難かったです。貸与されたノートパソコンを自宅に持ち帰ってインターネットに繋いだ時などに、今まで分からなかった用語が理解できると授業で教わった知識が身に付いているなど実感します。

大学生活全体だと時間の使い方が上手くなったかなと思います。課題の提出期限やアルバイトの他にも、予定は細かく手帳にメモする習慣が付きました。これは普段の生活やアルバイトでも重宝しています。

また、人間関係においてよく感謝するようになりました。全て自己責任である大学で助けてくれる友人や先輩は頼もしくて、心強くて、時に競い合える有り難い存在です。高校のようなクラス分けがないので、実際に人と関わる事で積極性や上手なコミュニケーションの取り方が身に付いていくのだと思います。

学業、紫雲祭実行委員会、アルバイト、家のこと、自分のこと……やるべき事がたくさんあって忙しい1年でしたが、そのぶん毎日がとても楽しく充実していた1年でもありました。次の1年は苦手や欠点を克服したり、資格の取得に励んだり、オンオフを上手く切り替えてより素晴らしい1年にしたいです。

忙しくも
充実した
この1年

長谷川 恵

Megumi
Hasegawa

卒業論文

- ◎自分が楽しめるものをできるといい。レポートではなく論文形式でかつ、起承転結があると読んでいるほうが面白いと思う。
- ◎自分も知らなくて、将来、人に教えてあげたいことを選ぶと進んで取り組めると思います。
- ◎書き方としては、とりあえず書いて直してまた書いて…を繰り返すしかないかと。人の書いた論文を手本にして書いてみるのも良いし、仲間たちに読んでみてもらうのもためになると思う。
- ◎結論に至るまでの過程と根拠を、他者が読んで理解できるようにすること。いきなり書き出すのではなく、章ごと等の大きな単位から、伝えたい内容をブレイクダウンしていくと話しの道筋がぶれにくい。
- ◎長い期間かけて書くので投げ出してしまわないように一番興味のあることをテーマにする。とことん先生と話し合ってテーマを決めた方がいい。先生との連絡は密に行い、書いたら定期的に見せる
- ◎一概にこれで良いといった書き方はないと思います。先生と何処が悪いのかを相談したり、テーマの中にある「なぜ」を突き詰めていけば、自然と筆は進むと思います。大事なものは、資料集めを疎かにしない事です。資料は、事件でいえば証拠品の様な物ですから。
- ◎書き方は、先生の細かい指導を逐一メモ取ったりしてきちんと覚えることが大切です。

*十人十色とは申しますが、様々な回答を頂戴しました。まとめを行うにあたって、この回答群が一番苦労しました。(編集委員より)

回答期間：2011.2.10-21 回答者数：27名

回答方法：Webアンケート(携帯電話での回答も可) ※REAS(放送大学提供)を利用しました。

学生時代の自分へ

- ◎バイトばかりせず大学生活をもっと楽しめるよう努力しなさい目標を持って生活しなさい。
- ◎長期休みをもっと有効的に使いなさい
- ◎なんとなく興味があればやらってみる事。この道でやっていきたい物を見つけたらやるように。思い立ったが吉日。
- ◎鶴大の図書館は有効活用すべし！
- ◎卒業後は自由な時間なんてしばらくは作れないから、大学生活が一番自分の時間が持てるからやりたいことをやった方がいい。
- ◎もっと色々なことを見聞きしてもよかったかもしれない。興味がなさそうなジャンルの授業も受けてみてよかったかもね。
- ◎早い段階で目的意識を持ち、将来どうありたいかを意識すること。長期的な目線で考えてください。
- ◎就職活動と卒業論文はそんなに簡単ではない。体力と気力が大切。早々に手を付けていけ、と言いたい。
- ◎本当にやりたい事が決まっているなら、それに向かって努力を継続することが一番大切だと思います。
- ◎社会人になると、やりたくてもできないことがたくさん出てくるので、在学中にいろいろな挑戦しろーと言いたいです。

*悔いのない学生生活を送ったと自信をもって回答していただけた先輩に敬意を表します。(編集委員より)

現役生からOBOGへの質問

No.2

前号に引き続き、先輩方には学生時代を振り返っていただき、様々な回答をいただきました。

Q3

進んだコースで、
よかったところはどこですか？

コース選択

- LAコースを選んで良かったのは貴重な図書館蔵書の古典本に触れた事。とても貴重な古い写本を実際に見て、触られるのはLAコースを選択して良かったと思える一つだと思っ。
- 貴重書を読めたこと、図書館学を学べたこと。
- IT企業へ就職したため、DDコースで行ったアプリケーションの活用等が役に立った。
- パソコンを使ったデータの活用、編集作業を学べたことが良かったです。
- パソコンスキルの基礎とデータベースの考え方を学べたこと。
- 今まで何の気なしに利用してきたインターネット等の技術を学べ、DDコースを選択してよかったです。
- パソコンは社会に出ても必ずと言っていいほど使つものですし、パソコンを使い慣れてるおかげで仕事の幅も広がりました。

* 学科の授業内容が色濃く出た回答が多く見られました。(編集委員より)

Q4

卒論のテーマの決め方・書き方の
アドバイスをください。

* 2008年度までLA(ライブラリーアーカイブ)コース、DD(デジタルドキュメンテーション)コースの2コース制でした。現在は図書館学・情報学・書誌学の3コースが設置されています。

Q5

就職活動でたいへんだった
ことは何ですか。

就職活動

- スケジュール管理がたいへんでした。重複しないようスケジュールを組むだけでなく、準備や反省の期間や体調を万全にするための休息時間も設けることも必要です。
- 自己分析が一番大変だった。履歴書の自己PR欄を書くのも意外と難しく、面接時にも必ず自己PRしなければならなかったので、苦戦した。
- 早く始める。希望職種以外でも説明会に行ってみる。説明会、面接はたくさん行く。面接は考えをまとめながら取り合えず喋る。
- 一般教養が不足していると感じました。
- 企業研究はもろろんの事、自己を見つめる事も大事です。何が自分に合っていて、何が弱いのか。自分が本当にやりたいのは何なのか。また、進学の道もあるので、良く考える事。誰かに相談するのもあります。また思わぬ出会いから違う道が見えてくることもあります。

* 履歴書や自己PRに関する回答が多く見られました。金銭面に関する苦勞話は、切実だと思われました。(編集委員より)

Q6

在学時の自分に送りたい
メッセージを教えてください。



7名の学生が、7社の企業で実習を行って来ました。ご協力いただきました各社には感謝申し上げます。

□ 株式会社東計電算

宮内隆太郎

実習では主に情報関連の業務を行い、Visual Basic によるプログラムを組んだり、SQL 文を構築したり、Excel で書類を作ったりしました。実習を通じて、小規模なプログラムが作成できるようになりました。プログラム作りに楽しさを見だし、働くことに充実感を感じられました。

□ 神奈川新聞社

大平実花

営業という職種を深く知る事ができました。営業というと、自社製品の販売をしているイメージが強くなりました。しかし、実習先で営業局の各部署をまわらせて頂くと、商品の販売促進の他にイベントの企画や運営、広告、出版に関わることも経験することができました。営業は様々な経験をすることのできる職種なのだと学ぶことができました。

□ 株式会社紀伊國屋書店

川島智美

大学図書館での業務が一番印象に残っています。カウンター業務や新着図書の装備、破損本の修理などを行いました。他にも、様々な大学図書館で実際に業務を行いました。図書館職員の方々から、普段は聞くこと

のできないお話をたくさん聞くことができました。インターンシップでしか知ることのできなかったことが多く、参加することができて本当に良かったです。

□ 株式会社ソフテム

松尾由梨乃

実習では、主にソフテム社の Web ページの一部を作成しました。私は、緊張しやすく、実習前日までは不安で一杯でした。しかし、担当者の方や社員の皆様のお陰で、始めはスムーズに出来なかった挨拶が自然と出来るようになり、Web ページの作成を含め、仕事も順調に運べるようになりました。インターンシップを通して、会社の中の動きを知ることが出来、就職活動に対しての不安を減らすことが出来ました。

□ 株式会社樹村房

大友すみか

実習前に、出版社の仕事内容等をよく調べておくべきだったと反省しました。更に踏み込んだ質問などができなかったことが残念です。ですが、編集者の仕事を学べたことは良い経験でした。著者の表現を守りつつユーザーを想定した表現に変えるという編集の考え方は、他者の意見をまとめるときなど、他の場面でも応用できるのではないかと思います。

※活動報告の詳細は学科ブログ (<http://blog.tsurumi-u.ac.jp/doc/>) でご覧になれます。

■ 「ドキュメンテーション」第 13 号をお届けします。

■ 東日本大震災から 1 年が過ぎました。復興にはまだまだ多くの時間と労力が必要です。卒業して行く学生たちの若い力に強く期待します。

■ 編集委員

〔学生〕井上 優・金丸早希〔教員〕原田智子・元木章博

ドキュメンテーション 第 13 号

平成 24 (2012) 年 3 月 12 日 (月)

鶴見大学文学部ドキュメンテーション学会
横浜市鶴見区鶴見 2-1-3 (〒230-8501)

☎ 045(581)1001 (代表) 発行責任者：原田 智子

学科ホームページ：<http://ccs.tsurumi-u.ac.jp/docu/>